

はじめに

近年、物流の国際化、大型化、交通網の発達により、ヒトと物の移動はより一層、広域・高速化され、72時間以内に世界中ほとんどの地域に移動できるようになりました。そのため海外渡航者の増加が顕著となっています。それに地球温暖化の進展に伴う感染症媒介生物の生息域の拡大なども加わり、感染症の発生動向は時々刻々と変化し、今後ますます拡大、複雑化することが予想されています。いつ、いかなる国においても安全とはいえず、更なる警戒を強める必要があります。

国内の感染症状況では、一昨年、南米を中心に流行したジカウイルス感染症など蚊媒介性感染症の国内侵入が今年もまだ危惧され、麻しんは、関東や関西の大都市圏及び沖縄等を中心に2年続けて流行が見られました。

また、風しんは、5年ぶりの大流行が懸念され、本県でも3年ぶりに報告が見られています。このような状況の中、当感染症情報センターにおきましても常に海外の情報を入手し、発生時には緊急かつ正確に検査対応できるように準備を進めているところであります。

感染症発生動向調査事業は、さまざまな感染症対策を的確に行うにあたり、明確なエビデンスとして利用される大変重要なものであります。実施主体である当保健製薬環境センターが果たす役割はますます重責になってくると考えています。今後も状況の変化に応じ、迅速かつ的確な調査と情報提供を行えるよう、感染症情報センターと検査部門との連携のもと、平時から業務推進に鋭意努力してまいります。

このたび、平成29年における徳島県の感染症情報をとりまとめ、年報を作成しましたので、感染症対策の資料として御活用いただければ幸いです。

なお、この事業の実施にあたりましては、県内各医師会、定点医療機関をはじめとする関係者の御協力を頂いております。この場を借りて深く感謝いたします。

平成30年12月
徳島県立保健製薬環境センター
(徳島県感染症情報センター)
所長 上岡 敏郎

目 次

1. 感染症発生動向調査について	1
2. 全数把握対象感染症患者報告状況	
(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況	5
(2) 各疾病の届出状況	
① 結核	6
② 腸管出血性大腸菌感染症	7
③ 重症熱性血小板減少症候群	8
④ つつが虫病	9
⑤ 日本紅斑熱	9
⑥ レジオネラ症	10
⑦ アメーバ赤痢	11
⑧ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	11
⑨ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	11
⑩ 急性脳炎	11
⑪ クロイツフェルト・ヤコブ病	12
⑫ 後天性免疫不全症候群	12
⑬ 侵襲性インフルエンザ菌感染症	12
⑭ 侵襲性肺炎球菌感染症	12
⑮ 水痘（入院例）	13
⑯ 梅毒	13
⑰ 破傷風	14
3. 定点把握対象感染症患者報告状況(週報)	
(1) 過去5年間の報告状況	15
(2) 各疾病の報告状況	
① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	16
② RSウイルス感染症	17
③ 咽頭結膜熱	18
④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19
⑤ 感染性胃腸炎	20

⑥ 水痘	21
⑦ 手足口病	22
⑧ 伝染性紅斑	23
⑨ 突発性発しん	24
⑩ 百日咳	25
⑪ ヘルパンギーナ	26
⑫ 流行性耳下腺炎	27
⑬ 急性出血性結膜炎	28
⑭ 流行性角結膜炎	28
⑮ 細菌性髄膜炎	29
⑯ 無菌性髄膜炎	29
⑰ マイコプラズマ肺炎	30
⑱ クラミジア肺炎	30
⑲ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）	31

4. 定点把握対象感染症患者報告状況(月報)

(1) 過去5年間の報告状況	32
(2) 性感染症患者報告状況	
① 性器クラミジア感染症	32
② 性器ヘルペスウイルス感染症	33
③ 尖圭コンジローマ	33
④ 淋菌感染症	34
(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況	
① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	35
② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	35
③ 薬剤耐性緑膿菌感染症	36

5. 病原体検査検出結果

(1) ウイルス検査結果	37
(2) 細菌検査結果	38

6. 資料 42

(参考資料) 徳島県感染症発生動向調査事業要綱